

1. 昔々、旧約聖書の時代のお話しです。イスラエルの国は、ペリシテという国と戦っていました。そのペリシテの国には、ゴリアテという大きな男がいたのです！

ゴリアテ「うわっはっはっ！ おい、イスラエルの越し抜けども、俺様と戦うヤツは誰もいないのか？

誰でもいいぞ、俺様と勝負しようじゃないか。がっはっはっ、誰もいないのか？ 弱虫どもめがっ！」

こんなにバカにされても、この巨人ゴリアテと戦おうという勇気のある人は誰もいません。イスラエルの兵隊たちは、しっぽをまいて逃げていくしかありませんでした。

2. それを偶然見てしまったのが、少年ダビデでした。ダビデはやがてイスラエルの王様になる人物なのですが、この時はただの羊飼いの少年です。でも、ダビデは神様を信じる勇気ある少年でした。弱々しいイスラエルの兵隊たちを前にして、ダビデはこんなことを言ったのです。

ダビデ「あんな男がなんだっていうんですか！ 私たちには神様がいるのに、それをバカにするなんて、なんてとんでもないヤツなんだっ！」

3. それを聞いたダビデのお兄さんは、怒ったこと怒ったこと！

兄さん「こらっ、ダビデ！ 生意気なことを言うんじゃないっ!! お前は羊の番をしていればいいんだっ。小さいお前にいったい何が出来るといふんだ。だいたい、ここは子供の来るところなんかじゃないぞ！ おい、うぬぼれるのも、いいかげんにしろっ!!」

ところが、勇気あるダビデのことが、王様の耳にはいったのです。そしてダビデは、王様に呼ばれました。

4. ダビデ「王様、安心してください。ボクが行って、あの巨人ゴリアテを倒しますっ！」

王様 「いや、あの、その…お前の気持ちは嬉しいけども、いくらなんでも、そりゃ無理ってものじゃ。」

ダビデ「王様、そんなことはありません。ボクは羊飼いです。いつだって、恐ろしい敵から羊たちを守っているのです。凶暴なライオンや熊を倒したことだってあります！」

5. 王様 「それはお前、可愛いライオンちゃんとか、パンダちゃんのようなものだったんじゃないの？」

ダビデ「王様、冗談を言っている場合ですかっ！ 神様がボクを守ってくださるから、大丈夫です!!」

・・・その言葉を聞いて王様は、ダビデを戦いにおくことに決めました。

6. そして王様は、自分の鎧(よろい)や兜(かぶと)や剣(つるぎ)を持たせましたが、大きすぎるし、重すぎるし、そんなものをダビデは着たことがありませんから、やっぱりやめました。

ダビデ「王様、ボクは羊飼いですから、羊を守る時に使う石投げの道具と石だけあれば充分です。」

こうしてダビデは、それだけ持って、巨人ゴリアテのもとへと向かいました。

7. ダビデ「おい、ゴリアテ。ボクが相手になるぞっ！」

ゴリアテ「ぎゃはははは～！ おいおいおいおい～、俺は犬じゃないんだぞ。がはははあ～、お前のようなちびっ子が俺様に勝てるとでも、本気で思っているのかあ？」

ダビデ「この戦いは、ボクの戦いじゃない。神様の戦いなんだっ！ 神様がお前を倒すのだった！」

8. ダビデはそう言うと、持っていた石投げの道具で、川原で拾った一つの石を、思いっきり投げつけました。その石は、「ビュ～～～～～～っ！」と、ゴリアテに向かって一直線に飛んでいきます！

9. 「ぐわっ～～～～っ！」……………

巨人ゴリアテは、ダビデの放った石、そのたった一個の石によって、見事に倒されてしまったのです！

10. 聖書にはこのように書いてありますよ。「主を畏れ、心を尽し、まことをもって主に仕えなさい。」Iサムエル 12:24

少年ダビデは、神様を信じて、勝利を得ました。神様を信じれば、神様は必ず助けてくださるのです。でもそれは、何でも自分の思い通りになるという意味じゃありませんよ。だけど、神様にお祈りするなら、神様は必ず素晴らしい方法で、勝利を君に与えてくれるんです。神様を信じて、神様にお祈りして、私たちは歩みましょうね。 おしまい。